



ゆり地域支援だより

令和5年8月7日発行 第2号 秋田県立ゆり支援学校 地域支援部

居住地校交流～小学部～

ゆり支援学校では児童生徒の「居住地における交流及び共同学習」を推進しています。特別支援学校の子どもたちが、居住する地域の小・中学校等で同学年の子どもたちと一緒に授業や行事に参加し、学んだり遊んだりすることで、豊かな人間性や互いを尊重する心を育むことを目的としています。

特別支援学校の子どもたちにとって、居住地で人間関係を広げ、豊かに暮らしていくために、地域の同年代の子どもたちとのつながりを築いていくことが大切です。小・中学校等の子どもたちには、交流を通して自然に関わりながら、相手への理解やお互いを思いやる気持ちを深め、地域の仲間としての意識を育てたいと考えています。

今年度は31名の小学部児童が居住地校交流を予定しています。実施にあたっては、相手校との交流内容や方法について事前の打ち合わせを行い、双方の子どもたちの教育的ニーズに応じた交流となるように進めていきます。

【外国語活動】ビンゴゲームをしながら、夏休みにやりたいことを紹介しました



【図画工作】「音」を絵で表現し、互いに描いた絵を見合って感じ方の違いを楽しみました



【特別活動】みんなで楽しめるポッチャとピン倒しのルールを交流校の児童が考えました



ご利用ください

- ◎障害理解学習
- ◎出前授業

本校では、地域の小・中学校に職員が出向き、「障害理解学習」を行っています。障害の有無や性別、年齢、国籍に関わらず、すべての人が互いの人権や尊厳を大切にし、心豊かな生活を送る共生社会の実現を目指して、「心のバリアフリー」（社会的障壁を取り除こうとすること）の精神を育てていきたいと考えています。

クイズ

「ユニバーサルデザイン」や「バリアフリー」は誰のための配慮なのか等、クイズを通して理解を深めます。

疑似体験

ロールプレイや寸劇を通して、多様性を認め、様々な人の気持ちに寄り添えるようにしていきます。

ロールプレイ・寸劇

車いすに乗る体験、軍手をはめてお花紙を開く体験、言葉が伝わらない国でどうしたらコミュニケーションがとれるか考える体験を通して、障害のある人の困難さについて考えます。

話し合い活動

「障害のある友達と一緒に活動する際の配慮点」や「社会的障壁を取り除くために自分にできること」等、テーマに沿って小グループで意見交換をします。

読み聞かせ

「すずちゃんのおみそ」、「みえるとかみえないとか」等ハンディキャップをテーマにした絵本や本を、年齢に応じて選び、読み聞かせをします。

コミュニケーションゲーム

相手のことを考えたり気持ちを合わせたりすることの大切さや楽しさをゲームを通して体験します。



多様性をテーマにした話し合い活動。「もしも自分と同じ考えの人だけの世界だったら？～よい点と困る点を話し合おう～」

上記の主な内容をもとに、みなさんのニーズに応じて学習を行います。児童・生徒を対象とした学習の他に保護者の方々向けのPTA研修などでもご利用ください。リーフレットも準備しています。どうぞ、お気軽にお問い合わせ下さい。

特別支援教育おすすめの本紹介

☆学習環境や授業作りに日々試行錯誤している先生たちへ改善に向けた数々のヒントが盛り込まれた一冊です。

「教室マルチリトメント」

川上康則 東洋館出版社



「マルチリトメントという言葉は欧米や国際社会においては広い意味で子どもへの不適切な関わり全てを意味します。」こんな一文で始まる本書には、もしかしたら無意識に、あるいは熱心さの表れとして行われている「不適切な指導」に対する問題提起の数々が書かれています。

本書の内容には誰もがどきりとする内容だけでなく、2学期から笑顔で子どもたちの前に立つために、改善のためのヒントもたくさん。

「感覚統合をいかに適応力を育てよう2 発達障害の子の読み書き遊びコミュニケーション」

木村 順 講談社



「読み、書き、計算、説明やまねが苦手、話が聞けない、空気がよめない等」の子どもたちの困り感について、子どもの「感覚」を理解した対応の工夫が重要であることが書かれています。具体的な支援方法を紹介しているので、今すぐ試してみたいくなります。

先生方のお悩みや疑問にお答えします。
ご連絡、お待ちしております。

秋田県立ゆり支援学校 地域支援部

TEL : 0184-27-2631

E-mail: yuri-s@akita-pref.ed.jp

